

神奈川県立保健福祉大学
2025年度県立高校生学習活動コンソーシアム
(高校生向け出張講座)

高校生向け出張講座テーマ

【事業の趣旨】

この事業は、地域貢献・高大連携の一環として、本学教員が有する知識・見識・教育力を活かし、県立高校の生徒に対して、大学での学術研究の成果等を踏まえた専門的・発展的な教育内容を提供することにより、高校教育の質向上を目的としています。

【高校側へのお願い ～お申込み前にご確認ください～】

1. 当該出張講座においては、高校生の進路選択や大学説明に関する説明は行いませんので、ご理解ください。
2. 大学行事や授業の関係で、ご要望にお応えすることができない場合もあります。
3. 神奈川県県立高校以外の高校にもお申込みいただけますが、その場合は旅費をご負担いただく必要がございますのでご了承ください。
4. 高校1校につき何度でもお申込みいただけますが、原則同じ教員へのお申込みはできませんのでご了承ください。
5. 申込みの受付は、実施の1か月前までとさせていただきます。なるべく余裕を持ってのお申込みにご協力をお願いいたします。
6. 出張講座で使用する機材は、高校側でご用意くださるようお願いいたします。

【お申込み方法】

必ず下記フォームからお申込みをお願いいたします。

※メール・FAX・郵送等でのお申込みは受け付けておりませんのでご了承ください。

高校生向け出張講座 申込みフォーム

<https://forms.gle/vvs32vczNaeH89CeA>



【問い合わせ先】

〒238-8522 横須賀市平成町1-10-1

神奈川県立保健福祉大学 事務局企画・地域貢献課

県立高校生学習活動コンソーシアム（高校生向け出張講座）担当

TEL 046（828）2530

FAX 046（828）2501

E-mail kikaku@kuhs.ac.jp

2025年度県立高校生学習活動コンソーシアム（高校生向け出張講座）テーマ

●看護学科

項番	教員名	講座（テーマ）名	内容
1	榑 恵子	自分らしさのメンタルヘルス	一生の間にはさまざまな人との出会いと別れがあります。自分と異なる人と出会うとき、自分の心の奥にある「不安」にも出会うことになります。そして、生じている不安の理解によって、自分を知り心理的に成長していきます。そのプロセスと活用についてお話します。
2	川名 るり	いつから「パパ」「ママ」なの？！	みなさん考えたことがありますか？赤ちゃんがある特定の人を「パパ」「ママ」と認知するのはいつから？なぜ？でしょうか。赤ちゃんの目線からみた、子どもの尊厳と権利、親の役割について一緒に考えてみませんか。
3	高橋 奈津子	ヘルスリテラシーって？	巷には健康・医療に関する情報があふれています。ヘルスリテラシーとは、健康・医療に関する信頼性のある情報を入手し、理解し、活用できる能力です。もし自分や家族が病気になったら？どのように必要な情報をえて、どのように治療に関する意思決定をするかについて考えます。
4	谷口 千絵	妊娠のしくみとからだ	妊娠のしくみと妊娠によるからだの変化、お腹の中の赤ちゃん（胎児）の成長と発達について学習します。妊娠する前のからだづくりについて考えていきましょう。
5	臺 有桂	自分と大切な人を守るための災害への備え	日本は、地震、台風など災害の多い国です。これらの被害を最小限にとどめるためには、平時からの防災、発災直後から避難所生活など、それぞれの時期の特徴を理解し、日ごろからのトレーニングが大切です。ミニ演習を交え、自分と大切な人の命を守るための行動を考えます。
6	野村 美香	がんと共に生きる人々へのケア	日本人の2人に1人ががんにかかり、亡くなる人の3人に1人ががんで死亡しています。がんを患い、治療を受けつつ生活する「がんと共に生きる人々」のよりよい生活のために看護として行うこと、この過程で起こる人間の成長について、理解を深め、生命や人生の重さと意味について考えます。
7	間瀬 由記	孫世代のサポートで高齢者の健康寿命を延ばそう	健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことを指します。平均寿命と健康寿命の差は日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味しており、この期間は男性で9年、女性で12年あります。健康寿命の延伸に必要なことを理解し、孫世代がサポートできることを考えましょう。
8	水戸 優子	楽々看護・介護動作	看護・介護の動作は、患者さんを抱き起したり、立ち上がりを助けたりなど、重労働であり、時に危険でもあります。そこで、看護・介護の動作のうち、よく行われるものについて、楽に行うためのボディメカニクス(身体力学) や看護用具を紹介します。
9	宮芝 智子	上手に失敗する方法を知って発達しつつける看護師になる	看護を学ぶことはとても楽しいし、ワクワクすること一杯です。でも、看護を学ぶプロセスでは、たくさんの問題にぶつかります。たくさんの失敗もします。そんな問題や失敗を成長の糧にできるように、上手に失敗する方法を一緒に探ってみましょう。
10	大場 美穂	一分一秒が惜しい救命の場で活躍している看護師のことを知っていますか？	病気や交通事故などで突然命の危険にさらされることがあります。そのような方を発見したときに私たちは何ができるのでしょうか。プレホスピタルケアや救急看護についてお話します。
11	加藤木 真史	体を知る	体調がすぐれないとき「食欲がない」「眠れない」「お通じがない」を経験したことがありますか？これらは病者の訴えの定番です。本講義では、なぜ病者にこれらの症状が生じるのかを体の仕組みから紹介し、自分の体調を自分で管理する方法について考えます。
12	黒河内 仙奈	高齢者のからだと認知症の理解	現在、認知症高齢者の数は、軽度認知障害の高齢者数と合わせて約 1,000 万人を超えています。将来、もしかしたら、あなた自身が、そしてあなたの家族が認知症になるかもしれません。この授業では、高齢者のからだや認知症のことを正しく理解することで、認知症を恐れることなく、子どもからお年寄りの誰もが暮らしやすいまちづくりについて考える機会にしたいと思います。
13	小林 珠実	がん医療におけるコミュニケーションについて	がん医療の場では、コミュニケーションをめぐる様々な問題が生じます。なかでも患者さんやご家族、医療チームで良好なコミュニケーションをとっていくことはとても重要です。患者さんの希望や気持ちを尊重したコミュニケーションが図っていけるよう看護師の役割やコミュニケーション・スキルについて考えます。
14	高橋 佐和子	知ってるようで知らない？養護教諭の仕事	子どもの健康を守り、健康になる力を育むのが養護教諭の仕事です。小・中・高等学校で養護教諭を目にして来ても、何のために何をしているのか、わからないことがたくさんあるはずです。養護教諭の仕事の奥深さを一緒に探りましょう。
15	田辺 けい子	生まれたての赤ちゃんのからだを知ろう！	新生児のからだには、母胎外の生活に適応するため、とても大きな変化が生じる。誕生の瞬間から生後1週間にみられる劇的な変化を学び、自分の力で生きようとする新生児の力強さと、その変化を敏感にキャッチしていく母親の姿を想像してみよう。
16	土井 英子	治る力を支える	ひとには治る力があります。しかし、ひとそれぞれ治るまでの時間やプロセスが異なります。手術によって変化する身体や生活への影響を考え、そのひとの治る力を最大限に発揮できるようにするための看護についてご紹介します。

2025年度県立高校生学習活動コンソーシアム（高校生向け出張講座）テーマ

●看護学科

項番	教員名	講座（テーマ）名	内容
17	中山 直子	地域でよりよく暮らすために、主観的健康感を高めよう！	自分のことを健康だと評価している人は、そうでない人よりも健康で長生きしていることが、これまでの日本の研究からわかってきました。このように主観的健康感を高めることは、高齢者のみならず、子どもや青壮年期にある人たちにとっても重要なことです。主観的健康感を高める方法や自分の健康の維持増進について一緒に考えてみましょう。
18	西名 諒平	入院している子どもたち	「病気の子ども」というと、皆さんはどんなイメージですか？ か弱く、かわいそうなイメージかもしれません。実は、子どもたちは、病と共にありながらも日々成長し、乗り越えてゆく逞しい存在です。病と共に育つ子どもたちの姿と、その子たちのために小児医療がどう行われているかを知ることを通して、「治す」ばかりでない医療のあり方について考えてみたいと思います。
19	吉田 安子	思春期女性の健康を考える	思春期は、初経発来後、周期的な月経を迎える時期ですが、それに伴う健康問題も起こりやすい時期でもあります。女性ホルモンの働き、月経困難症などについて知り、より健やかな日常生活を送るためのセルフケアについて一緒に考えましょう。
20	安藤 里恵	糖尿病を正しく知ろう！	日本人の成人の5人に1人は糖尿病と言われています。みなさんは糖尿病に対してどのようなイメージを持っていますか？あまりいいイメージではない人が多いと思います。でも、糖尿病は正しく知れば、自分に対して、そして周囲の人に対してできることがたくさんあります。糖尿病についての話や患者さんの体験から学び、自分にできることを一緒に考えましょう。
21	佐々木 杏子	人が人らしく過ごすことを支える	みなさんは何気なく“起きて”行動をしています。その“起きる”という当たり前のことについて考えたことがありますか？人が起きていることは、人間らしく生きている証といえます。一方、病院にはいろいろなことで寝ていることを余儀なくされる方たちが多くいます。“寝たきり”が人に及ぼす悪影響や、寝たきを予防するための看護について紹介します。
22	末田 千恵	看護師がお家にやってくる！	現在、病気や障害があっても、高度な医療機器を使っても、住み慣れた自宅で過ごすことができます。そのような人々の生活を支えている「訪問看護」について紹介し、病院以外で活躍している看護師についてお伝えしたいと思います。
23	長島 俊輔	あなたの時計は今何時？～体内時計を整えてしっかり眠ろう～	人生の1／3である睡眠は、私たちにとって必要不可欠な時間であり、健康とも密接に関連しています。この講座では睡眠のメカニズムである体内時計の仕組みについて説明し、夜にぐっすり眠るための“時刻合わせ”の方法を紹介します。
24	森本 淳子	こころのメンテナンスをしてみよう	ストレスとどのように付き合っていますか？私たちのこころとストレスとの関係、こころの不調について知り、こころのセルフケアについて体験を通して考えてみましょう。また、困った時の対応や相談先についても紹介します。
25	渡邊 恵	看護師に求められる「医療安全」	看護師は24時間365日患者さんに寄り添い、患者さんの生活を支えています。緊急性の高い業務を行うことによるストレスや深夜の長時間労働による疲労は判断力や注意力を低下させます。看護師はどうやって医療事故を防止しているのか、その取り組みを具体的にご紹介します。
26	後藤 雅子	健康に暮らすために、地域で活動する看護職	多様性が認められ求められている現代で、地域において健康に暮らすということも、さまざまなあり方になってきています。地域で活動する看護職を紹介しながら、ひとり一人にとっての健康や家族・集団・地域の健康について考えていきます。
27	鈴木 翼	お家で生活する医療的ケアのある子どもたち	医療的ケア（吸引や人工呼吸器管理、経管栄養等の医療行為）を受けながら日常生活を送っている子どもたちが皆さんの地域で暮らしています。地域で暮らすには様々な準備や支援が必要になります。医療的ケアのある子どもたちが病院を退院してお家に帰るまでの道のりについて紹介したいと思います。そして地域で生活する医療的ケアのある子どもたちの支援について一緒に考えたいです。
28	瀬谷 絵莉佳	こどもを授かることとは	こどもを授かることによって、女性や周りのひとの人生は大きく変わります。こどもを授かることによって、どのような変化が生じ、どのような準備が必要となるのかを一緒に考えてみましょう。
29	高橋 恵理菜	アサーティブコミュニケーションって？	コミュニケーション技法のひとつであるアサーティブコミュニケーションを身に着けることによるメリットは多々あります。みなさん自身の自己表現方法について振り返り、自分も相手も大切にするアサーティブコミュニケーションについて、ワークを通して練習してみましょう。
30	高山 千春	がん教育～がんってなんだろう？～	がんと聞くとどんなイメージが浮かぶでしょうか？自分自身や家族、身近な人ががんになることは起こりえます。がん、治療について正しく知り、生活のことや心理面について考えてみませんか？
31	星 美鈴	「もしも」のために話し合うこと	万が一の時のために、自分がどのような医療やケアを受けたいかという意思を、家族や医療従事者などと元気なうちから話し合っておくことをアドバンス・ケア・プランニング(ACP)と言います。大切だけど避けてしまいがちな話題ですが、一緒に考える機会になればと思います。

●看護学科

項番	教員名	講座（テーマ）名	内容
32	細谷 陽	身近な「依存」について考える	「依存」と聞くと、皆さんはどんなものを思い浮かべるでしょうか？ご両親や友達のことでしょうか？それとも、お酒や違法薬物といった依存症についてでしょうか？私たちは常に何かに依存して生活をしています。そんな身近にある「依存」について、今一度考えてみませんか？
33	森 朱輝	実は身近な感染症～感染症の特性と対応策を学び、差別・偏見について考える～	感染症と聞くと、今はコロナが浮かぶと思います。しかし、とても身近な感染症としては、インフルエンザや風邪症状がそうです。また、身近に感じないかもしれませんが、梅毒やエイズのような性感染症も実は身近な存在です。身の周りに普通にある感染症について知り、適切な対処方法を学び、どのように行動したら良いか一緒に考えましょう。そして、感染症による差別偏見についても考えてみませんか？

2025年度県立高校生学習活動コンソーシアム（高校生向け出張講座）テーマ

●栄養学科

項番	教員名	講座（テーマ）名	内容
34	田中 和美	栄養と社会保障制度	現在の少子高齢化で医療・介護・年金の制度など、社会保障制度の存続が危惧されています。意外かもしれませんが、若い世代から高齢者まで栄養状態を適切に保つことと社会保障制度を保つことは深い関係があります。若い世代の痩せから親世代のメタボ、高齢者の低栄養とこれらの関連についてお話しします。
35	倉貫 早智	遺伝子と栄養の関わり	遺伝子というと、ミクロな世界をイメージすると思いますが、私たちが普段食べる食事での栄養と関わりがあります。実は体質という言葉は、人によって違う遺伝子配列が関係していることが分かってきました。身近にみられる例から、遺伝子と栄養の関わりをお話したいと思います。
36	五味 郁子	栄養教育と行動科学	ひとが健康のために食生活を変容するのは、頭で理解していても実際は容易ではありません。管理栄養士は、栄養・食事の専門知識とあわせて、行動科学を用いて対象となるひとの食行動の変化を促し、健康な食生活をサポートします。栄養教育と行動科学の絶妙なからくりをお話します。
37	鈴木 志保子	バランスのよい食事を理解し、実践しよう	バランスのよい食事という言葉は知っていても、実践するための知識が確立されていないことが多くあります。健康の維持のためにバランスよい食事を理解し、実践することを習得することを目的とした授業です。
38	向井 友花	見えない生き物の世界 ～微生物と健康の関わり～	私たち人間は、想像をはるかに超えるほど多くの“見えない生き物—微生物”と共存しています。環境中にも、私たちの体の表面や内側にも、数え切れないほどの微生物が存在し、私たちの生活に少なからず影響を及ぼしているのです。見えないけれど面白い。奥深い微生物の世界を紹介しながら、私たちの食生活や健康との関わりについてお話しします。
39	村越 智	解説します～経口摂取の大切さ～	現代の栄養管理学では“使える腸は休ませずにできるだけ使う”というのが鉄則になっています。自分の口を使って咀嚼し飲み込み、そして腸を使って栄養を吸収するという、人体にとって当たり前の事象が健康を維持するために重要であるのか、その仕組みを平易に解説します。
40	山西 倫太郎	食品機能学入門	「この製品には、〇〇する機能があります。」て、家電や電子機器のカタログによく書いてありますよね。一方で「これは、□□な機能を持った食品です。」と聞いたとき、違和感はありませんか？食品にはスイッチやセンサーが付いているわけでは無いですから。この“食品の機能”とは何のこと・どんなことを言っているのかについて、解説します。
41	駿藤 晶子	AI（人工知能）を使って自分の食生活を見よう	皆さんは自分の食生活に満足していますか？何をどれだけ食べてよいかわからない人はいませんか？そんな皆さんは一度自分の食生活をAI（人工知能）を使ってセルフモニタリングしてみましょう。AIのアプリを使いながら、高校生の皆さんにとって必要なエネルギーや栄養素量を理解して、簡単に楽しく自分の食生活をふり返ってみましょう。
42	遠又 靖丈	科学的根拠に基づく栄養対策	より確からしい情報に基づいて栄養対策を行うためには、どのような観点が必要になるのでしょうか？栄養や食品の健康有益性に関する研究報告の情報を整理するための「エビデンスレベル」などの考え方を紹介します。
43	飯田 綾香	カラダは食べたものでできている ～科学的に食を考えよう～	小学生や中学生の時の食育を覚えていますか？食育は知育・徳育・体育の基礎となるべきものと位置づけられ、実施されていますが、それは何故でしょう。自分の体を「代謝」という側面から覗き、どのように栄養という営みが行われているかを解説します。
44	片岡 沙織	食事の整え方について	人間にとって、運動、栄養、休養の3本柱は非常に重要な要素です。バランスよく食事を整えることの重要性を学び、実践に結びつけることを目的とした授業です。
45	樋口 良子	いざ…という災害時に備える栄養と食事	災害が頻発しているわが国において、各家庭で食料等の防災用品を準備しておくことはとても重要なこととなっています。皆さんの家はどうですか？この講座では、食料備蓄のポイント、災害発生直後からのちを守る基本4つや非常食の応用（バッククッキング）など、災害時に備える栄養と食事について学んでいただきます。
46	イスハク ハリム オクタ ウィジャヤ	世界の食文化を知りましょう！	皆さん、インドネシアやトルコ、スペインなど他国の主食は知っていますか？例えば、インドネシアの主食、お米が日本と同じだと思ったら、実はお米の種類も違います。また、お料理に使う調味料や作り方、食べ方も違います。この授業で様々な国の食べ物やそれにまつわる文化と一緒に勉強しましょう！普段食べないものを知って、機会があったら食べてみたら、もしかしたら皆さんのお気に入りの食べ物が増えるかもしれません！
47	杉原 規恵	ポリフェノールの正体とその作用	ポリフェノールについて知っていますか。なんとなく聞いたことはあるけれど具体的な正体を知る機会はありませんよね。。。ポリフェノールはコーヒー、緑茶、赤ワイン、チョコレート、野菜、果物などなど身近な食品に含まれているのでみなさんも知らず知らずのうちに摂取しています。これまでにわかっているポリフェノールの身体への作用について勉強しましょう。

2025年度県立高校生学習活動コンソーシアム（高校生向け出張講座）テーマ

●栄養学科

項番	教員名	講座（テーマ）名	内容
48	田中 琴音	社会経済的状況と食事の関連	社会経済的状況（SES）ってなにか知っていますか？これは収入、職業、教育歴の3つで規定されるもので、世界中全ての人がSESの影響を受けています。そしてSESは、その人の食事にも大きく影響しています。食事って自分の意識で選んでいるわけじゃなかったの？一緒に学んでいきましょう！
49	福岡 梨紗	管理栄養士のお仕事 ～病院・在宅訪問編～	みなさん、管理栄養士を取得した後、どのような場所でお仕事をしているのかご存じですか。この授業では、病院と在宅訪問を中心に、管理栄養士はどのような役割があり、どのような仕事をしているのか、私の経験を踏まえながらお話ししていきます。

2025年度県立高校生学習活動コンソーシアム（高校生向け出張講座）テーマ

●社会福祉学科

項番	教員名	講座（テーマ）名	内容
50	新保 幸男	児童福祉学	「児童の最善の利益」をキーワードとして「児童福祉学」をめぐる最近のトピックスについてのお話しをさせていただき、学問の面白さと奥深さの両方を感じていただければと思います。その過程で、ご自身の進路や人生について考えることになると思います。
51	高橋 恭子	ソーシャルワーカーの仕事	ソーシャルワーカーは社会福祉施設・機関で働く社会福祉の専門職で、相談援助の仕事をしています。医療ソーシャルワーカーが専門家として大切にしている価値や倫理、援助の方法や技術などにふれながら、その仕事の魅力ややりがいについてお話ししたいと思います。
52	玉川 淳	「人生のリスク」への備え方	生きているとさまざまなリスクに見舞われます。そうと分かっているならば、前もって何とかできないのでしょうか。これまで社会が積み重ねてきた工夫を取り上げて、十分な備えとなりそうか皆さんと一緒に考えてみたいと思います。
53	中村 美安子	地域自立生活支援の考え方	近年社会福祉では、施設入所中心型から在宅重視・利用者本位へと転換がはかられていて、どうすれば地域での自立生活を支援できるかということが重要なテーマとなっています。重度障害者の地域生活の例などをみながら地域自立生活支援のあり方について考えます。
54	行實 志都子	こころの健康ってなんだろう？ イライラ・もやもや・自分ってなんだろうって感じていませんか。	皆さんは生活の中でストレスを感じていませんか？例えば、イライラしたり、なんだか友だちとうまくいかないとモヤモヤしたり、孤独を感じたり、自分に自信がもてないなどありませんか。ストレスって、そのままにしておくと、知らぬ間に私たちの健康を脅かします。ストレスとうまく付き合い、楽しい毎日を送る方法を一緒に考えてみましょう。また、今皆さんの周りに忍び寄るゲーム依存、インターネット依存、うつ病などについてもお話しします。
55	在原 理恵	「多様性の尊重」を大切にする社会づくりについて考えよう～誰もが地域社会で生きる権利を通して～	現代社会のキーワードの1つに「多様性の尊重」があります。しかし、障害のある人達が地域社会で普通に暮らす権利はまだまだ充分に実現していません。その問題を共有することで、個性や能力等に関わらず誰もが地域社会で暮らせる権利の大切さについて考えていきます。
56	石井 忍	しあわせ運ぶ介護の仕事	日本には介護福祉士という国家資格があります。そのイメージは三大介護と言われる「食事」「排泄」「入浴」の直接の身体介護を上げられることが多いのが事実です。実際には対象となる方々を総合的に理解し、その方々が暮らしやすくするためにどのような支援が必要か分析して行くことがまずは求められます。介護現場の現状を考え、未来を担う若者が介護福祉の世界でやりがいを見出していることに言及します。
57	大島 憲子	脳のはたらきと介護のふしぎな関係	「脳のはたらきと介護を行うことに関係があるのだろうか…」と思う人は多いかもしれません。脳のはたらきを知ることは、介護を必要とする人にも、介護を行う側にも、大きな意味があります。その意味を脳のはたらきと介護とのふしぎな関係の中で学んでみませんか。「驚きの内容」や「普段の生活の中で役に立つ内容」も含めてお話ししたいと思います。
58	吉中 季子	貧困と社会福祉	私たちの社会では、見えないところで貧困や格差が広がってきていると言われていいます。高齢期の年金の問題、働き方のちがい、女性の貧困、子どもの貧困、学ぶときの格差（奨学金の問題）など、あるいは、これが貧困と気づかないこともあります。私たちの暮らしのなかでどのようなことが起こっているのか、社会制度や仕組みとの関わりについて考えます。
59	野田 有紀	世界をつなぐ手：外国人と共に生きる社会	私たちの日常と密接に関わる国際化と多文化共生の重要性について学びます。世界中から日本に来る人々が直面する課題-仕事、学校、病院へのアクセスなどをリアルな事例を交えて探り、私たちの地域や福祉政策にどんな影響を与えているかを見ていきます。具体的には、異なる文化や言語の背景を持つ人々が遭遇する困難にどう対応しているか、私たちが地域でどう支援できるかについて考えます。国際的な視点を持ちながら、自分たちの地域でどう行動するか、グローバルな視点を学ぶこの時間が、みなさんにとって新たな発見につながるかもしれません。
60	福馬 健一	どうして、高齢期にみられる困難を学ぶ必要があるの？	以前、高齢期の女性の方とお話する機会がありました。その方は、「年を重ねると出来なくなることが増えるから、落ち込むことも多いのよ」と、しみじみおっしゃっていました。これまで出来ていたことが出来なくなり、落ち込んでいるお姿を思い浮かべると、とても切なく感じます。このように、なるべくなら想像すらいたくない高齢期にみられる困難について、なぜ、ソーシャルワーカーは、わざわざ、あえて、関心を持って学び続けるのでしょうか。この点について一緒に考えていけたらと思います。
61	松田 愛実	高齢者のからだの変化とコミュニケーション	高齢になると様々なからだの変化が現れます。例えば、耳が遠くなる、目が見えにくくなる、忘れっぽくなるなどがあります。どんな変化が起こるのかを知ること、お年寄りとのコミュニケーションが少しとりやすくなります。高齢者のからだの変化を知り、人生の先輩たちと楽しくお話する方法を学びます。

2025年度県立高校生学習活動コンソーシアム（高校生向け出張講座）テーマ

●リハビリテーション学科

項番	教員名	講座（テーマ）名	内容
62	菅原 憲一	運動を学習する脳の役割とその方法論	リハビリテーションの基本である「運動学習」をテーマとし、運動学習中に関わる大脳および小脳を中心とした中枢神経系の興奮性の変化や筋収縮、運動の変容といった生理学的なメカニズム、 さらに、それを踏まえた運動学習に関する運動指導方法論などを概説します。
63	笹田 哲	人間と作業について	人間作業モデルは作業療法の実践モデルです。作業とは遊び、日常生活活動、仕事からなります。人間作業モデルは人間を環境と絶えず交流する存在としてみなし、システム理論の考え方を取り入れています。本講義では、人間の作業の意味について概説します。
64	仙波 浩幸	とにかく身体を動かそう！	人間の身体は、運動することがデフォルトとして神が造りました。甘いおかしを食べて寝転んでいる生活が続けると身体はどうなってしまうか。運動不足や安静は百害あって一利もありません。この講座は怠惰な生活が続けることの怖さ、活動をする事の大切さ、健康を保つための疾病予防の秘訣を運動生理学、理学療法学を通して学習します。
65	奥原 孝幸	人の心と行動の不思議	精神障害のリハビリテーションの中で作業療法士は大きな役割を持っています。心身や精神の不調は誰にでもあり、皆さんにもあります。特に高校生は心とからだに大きな変化を持っていて、人生の大きな節目に立っています。その君に知ってほしい心のこと、高校生の君が知っておくべき心の病気に触れながら、「人の心と行動」に関して作業療法の視点と私の体験を交えながらお話しします。
66	白濱 勲二	作業療法と脳活動	リハビリテーションの治療といえば、歩行訓練や筋力増強訓練などが広く認知されていますが、ヒトの高次脳機能障害、運動機能障害に対するリハビリテーションは未開発であり、重要な課題でもあります。本講義では、高次脳機能の検査、リハビリテーション治療、作業療法と脳活動との関連性について解説します。
67	玉垣 努	アフォーダンスと作業療法	現代医学は脳を中心に組み込まれています。しかし、J. J. ギブソンは、環境が運動制御に大きく関与していることを提示しました。環境が動物に提供する行為の可能性を「アフォーダンス」という言葉を用いて表現し、加えて、動物が取り囲む環境に適応し行為を行うためには、自発的に探索していく行為の重要性を示唆しています。この新しい概念と作業療法との関係性を提示します。
68	内田 賢一	体を動かすとなぜ息苦しくなるの？ ー病氣と運動からみる呼吸の科学ー	肺における酸素の取り込みと炭酸ガス排泄の関係についての基本を学び、肺に病気になる患者さんの息苦しさの原因や呼吸障害について概説します。また、爆発的なパワーが求められる競技と、持久力が求められる競技では、筋肉の組成が異なります。酸素摂取量と炭酸ガス排泄量の関係性から、筋肉の特性やトレーニングの効果判定に使われる呼気ガス分析についてもお話しします。
69	島津 尚子	ひとはどのように歩いているの？ ～歩行を支援する義肢装具とは～	ひとは身体に障害を持ったことで、歩行が難しくなることがあります。理学療法では、歩行能力を改善するために、補助具（装具や義足）を使用します。これらの補助具がどのように作用し歩行能力を改善するのかを、理学療法士の視点よりお話しします。
70	鈴木 智高	身体運動を科学的に学ぶ	身体を動かす機能が損なわれると、私たちの日常的な活動はとても困難になります。スポーツのように高度な運動であれば、わずかな運動機能の変化であってもその影響は大きくなります。このような課題に対峙する理学療法士にとって、身体運動に関する知識は必須です。本講座では、身近な運動を題材にして、運動学的な変化を実際に感じながら、身体運動学の面白さを学んでほしいと思います。身体運動学を知れば知るほど、パフォーマンスの向上に寄与するポイントが見えてきます。
71	平瀬 達哉	フレイルって何？	世界第一位の長寿国となったわが国では、高齢者の健康寿命をいかに延伸するかが重要な課題となっています。健康寿命を延伸するためには、高齢者特有の病態であるフレイルを理解し、その対策が不可欠になります。本講義では、フレイルについて概説するとともに、その予防に向けたリハビリテーションの実践について紹介します。
72	藤田 峰子	ウイメンズヘルスとリハビリテーション	女性は男性と比べ、生涯にわたり様々なイベント（出産など）に伴い、体に変化が起きてきます。その変化に対して痛みや姿勢の変化、尿もれなど不調が生じていく場合があります。その変化とリハビリテーションについてお話しします。
73	渡邊 愛記	自分らしい生活の見直し	毎日の生活活動のバランスが崩れると自分らしい生活が送れなくなります。みなさんは健康的で自分らしい生活を送ることができていますか？生活の見直しについて作業療法士の支援を紹介するとともに実際に体験していただき、生活活動バランスの改善について考えます。
74	小河原 格也	認知症の人にやさしいまちとは？	「Dementia-Friendly Community（DFC：認知症の人にやさしい地域・社会）」の名の下に、全国で多くの取り組みが実施されています。しかしながら、地域の様々な立場の人を巻き込んだ「地域ぐるみ」の取り組みは、まだ一部でしか進められていない現状です。認知症の人にやさしい三浦半島を目指すためにはどうすれば良いのか、作業療法の視点も交えながらお話しします。
75	浅井 直樹	姿勢と運動のバイオメカニクス	私たちは普段まったく意図せずともさまざまな姿勢や運動を、安定して行うことができています。しかしながらよく考えてみると、特に立ったり歩いたりするときに、背の高い人体が狭い足底面だけで倒れずにいられるのは不思議ではありませんか？私たちが普段行っている立つ、歩くといった姿勢や運動がどのようなメカニズムで成り立っているのか、運動学と運動力学の視点からお話しします。

2025年度県立高校生学習活動コンソーシアム（高校生向け出張講座）テーマ

●リハビリテーション学科

項番	教員名	講座（テーマ）名	内容
76	池田 公平	医療機関における多職種連携について	チームワークとは、古くも新しくもあるテーマです。特に、医療や対人サービスの領域においてチームワークを欠くことはできません。今後、専門職は自分自身の活動に専念するだけでなく、意識的にチームに関与することが求められています。ここでは、チームによる活動の特徴や効果、チームで活動することの難しさなどについて概説します。
77	中村 拓人	「作業」の視点で生活を考える	みなさんは毎日勉強をしたり、遊んだり、部活やアルバイトをして過ごしていると思います。作業療法士はそのようなあたりまえの日々の活動を「作業」とよんでいます。そして、人間の健康は幸福はこの「作業」によって日々支えられているのだと考えているのです。本講座では人々がどのような「作業」をしているのか、そして「作業」を用いて健康と幸福に貢献する作業療法士の仕事についてお話します。
78	肥田 直人	歩くってどういうこと？人の歩行のメカニズムを探る	私たちは日常生活の中で無意識に歩行の速度を変えています。横断歩道を渡るとき、急に目の前にヒトが現れたとき、あるいは景色を楽しみながらゆっくり歩くときなど、状況に応じて歩行の加速や減速を調整しています。しかし、ヒトはどのようにして歩行速度をコントロールしているのでしょうか？この講義では、歩行の加速と減速のメカニズムについて、力学的な支点を交えながら考えていきます。
79	佐藤 範明	自分らしさと心理的健康・幸福について	高校生は自分らしさを模索する時期です。自分らしさの確立は生活満足度や幸福感、心理的健康を高めます。ヒトは誰でも長所と短所はありますが、短所があっても自分自身の価値を大切にすること、自分を認めることは自己肯定感に良い影響を与えます。日々の生活で行える自己肯定感を高められる方法を作業療法の視点を交えながらお話しします。

2025年度県立高校生学習活動コンソーシアム（高校生向け出張講座）テーマ

●人間総合科

項番	教員名	講座（テーマ）名	内容
80	津田 学	モデル生物のスーパースター ～ショウジョウバエ～	ショウジョウバエは体長がおよそ 3 mm前後の比較的どこにでも生息している完全変態昆虫です。この小さいハエは、古くから生命現象を研究するためのモデル生物として利用され、大きな貢献を果たしてきました。現在では、その成果は生命現象の解明にとどまらず、医学・薬学分野へも広がっています。本講義ではモデル生物としてのショウジョウバエについて紹介します。
81	木村 芳滋	「かたち」の不思議！？	ヒトの「かたち」はどのようにして作られるのでしょうか？ なぜ「あたま」、「うで」、「あし」は決まった場所にあるのでしょうか？ 男と女のからだは外見だけでなく、骨の形もかなり違います。なぜ、このような違いが生ずるのでしょうか？ 本講座ではこのようなヒトの「かたち」づくりの不思議なしくみをお話します。
82	関 勝	みんなで築き上げること ～医療の中の「チームアプローチ」を考えよう！	「チームアプローチ」の概念は現代社会においても広く普及していますが、言葉としての一人歩きの感は否めない事実です。本講座ではリハビリテーション科医師の立場から、まず「医学・医療」についてわかり易く解説した上で、多岐に渡る医療専門職スタッフの役割をお話します。さらに「保健・医療・福祉」の現場での「チームアプローチ論」を展開して、高校生の視点で社会における相互連携と調和への理解を深めるとともに、将来の人材育成に貢献したい所存です。
83	成 耆鉉	アメリカミズアブのはなし	アメリカミズアブは皆さんの身近にいる虫です。でも、ほとんどの方は、その存在を気にもとめたことはないと思います。じつはこの虫、世界中で注目されています。もしかしたら、地球の未来を救う虫になるかもしれません。この虫のなにがそんなにすごいのか、お話ししたいと思います。
84	深沢 和彦	高校生のための教育心理学 ～自分の心に気付く～	教育心理学は、教育活動について心理学的に研究し、教育上の課題を解決するための心理学的知見と心理学的技術を提供する学問のことです。高校生の課題の中から、①ストレスについて ②目標設定について ③アイデンティティについての３点をお話ししたいと思います。今の自分の心に気付くきっかけが得られると思います。
85	生田 倫子	性格について	自分や他人の性格について興味を持ったことはありませんか？ 人の性格は実にさまざま。「性格とは何か」「性格は変わるか」「性格はどのようにして測るのか」などなど。性格に関係する様々な話題を手がかりに、雑誌などのお手軽心理チェックについて、また精神科などで用いられる検査について解説します。
86	城川 美佳	あなたの防災は	最近、地震をはじめとする様々な災害が発生しています。災害に対する備え、つまり防災について日ごろから準備をしておくことは大切です。では、防災としてどのような準備が必要なのでしょう。最近の自然災害によって被災した方々に起こったことをお話ししながら、防災について考えていきたいと思います。
87	佐竹 弘行	DNAと一塩基多型のはなし	DNAは4つの種類の「塩基」が並んで構成されています。その並び（配列）にはいろいろな情報が含まれていますが、塩基の配列には個人によってわずかに違う部分があります。そのうち、とくに一つの塩基の配列が違っている部分のことを一塩基多型（SNP）といい、これは病気のかかりやすさ、くすりの効きやすさや副作用の起こしやすさの個人差の原因となりうるものです。本講義ではこれらについて分かりやすく解説し、一塩基多型を化学の力を使って見つけ出す方法についても紹介します。
88	志村 華絵	貧血ってなんだろう？	「貧血」という言葉は日常生活でもよく耳にするとします。でも、本当の意味を知っていますか？身近な病気でありながら、あまり正しく知られているとは言えません。また、貧血というと「鉄が不足している」「鉄を含む食べ物を多く取るとよい」などと言われますが、実際には必ずしも鉄が不足しているわけではないのです。身近な貧血について一緒にひも解いてゆきましょう。貧血の他にも、血液の病気について簡単に触れていきます。

2025年度県立高校生学習活動コンソーシアム（高校生向け出張講座）テーマ

●ヘルスイノベーション研究科

項番	教員名	講座（テーマ）名	内容
89	鄭 雄一	多様性は道徳性と両立するか？	最高の技術、モノ、サービスを作り上げ、イノベーションを実現するには、分野や国境を越えて多様な人材が協力しあう環境を整えることが重要です。しかし、多様性は道徳性とはそのままではぶつかり合い、両立には調整が必要になります。その際の調整の原理について、みなさんと考えたいと思います。
90	島岡 未来子	アントレプレナーシップって何？	「アントレプレナーシップ」という言葉を聞いたことがありますか？「起業家精神」と訳されることが多いこの言葉ですが、何も新しい会社を興すことだけを意味するものではありません。アントレプレナーシップは、様々な社会的、資源的な制限がある状況下で、イノベーションを武器として、変化のなかに機会を発見し、何かを成功させる精神、です。ここで「何か」とは、例えば、SDGsの目標やプロジェクト、新しい製品やサービス、新しい研究や学問など、われわれ人間が関わるあらゆる活動が当てはまります。アントレプレナーシップとは、あらゆる人、あらゆる職業に非常に役に立つ精神といえましょう。これから皆さんがどのような将来を志すにしても、ぜひ一度は学んでいただきたい精神です。講座では、アントレプレナーシップと、その手法のひとつであるデザイン思考に触れます。
91	津野 香奈美	健康格差って何？	生まれ育った場所、生活する場所、働く場所がどのようなところかによって、健康状態や寿命がある程度決まることがわかっています。 自分の健康を守るためにどのようなことに気を付けたら良いのか、格差をなくすにはどうしたら良いのかを一緒に考えてみましょう。
92	徳野 慎一	声で病気を判定する	友達から電話がかかってきて「あれ？どうしたの。調整悪そうだよ」って感じることはないですか？これは、人間の耳が声の特徴をとらえて話し手の健康状態を判断しています。これを、人間がとらえられない微細な変化をもとらえて機械が早期にさらに健康不良の状態をも判定するドラえもんグッズのようなシステムの開発についてお話しします。
93	成松 宏人	がんと健康のはなし	今や2人に1人はがんになる時代になりました。かつては不治の病と言われていましたが、近年は、治療も急速に発展してきています。 自分や家族ががんにならないためには？もしも、がんになってしまったら？がん予防、がんとゲノム、がんと遺伝、がんの治療などにキーワードでお話をさせていただきます。
94	Byung-Kwang Yoo	Public health measures against a pandemic	COVID-19 highlighted the importance of various public health measures, particularly monitoring systems. This lecture will detail the recent developments of new monitoring systems, e.g., that using a sample from wastewater treatment plants in Japan and other countries.
95	吉田 穂波	Explore ME-BYO health model in the early stage 高校生のうちに知っておきたい!自分らしい人生をデザインするための身体作り	Learn about health habits that you should know in high school age to consider your health throughout your life span, including family, marriage, and childbirth. これからの時代、ライフスパンを考えた健康作りの知識を持っていると、今後の人生が、そして長寿が楽しみになってきます。産婦人科医が教える、男女ともに自分の体の変化やホルモンの波を乗りこなしながら生きるヒント。きっと、自分の身体のことを、もっと好きになれる講義です。
96	渡邊 亮	日本の医療制度と特徴	若いうちはあまり接点が多くない人も多い病院やクリニックですが、そのような「医療」の仕組みがどのようにできているのか、そしてその課題は何か、日本の制度の特徴を踏まえつつ考えます。
97	下畑 宣行	薬の費用対効果評価って？	お金を払って物を買うときもしくはサービスの提供を受けるとき、物やサービスの価値がその価格に見合うのかといった「コストパフォーマンス」については、普段からよく考えるのではないのでしょうか。しかし、医薬品の「費用対効果」評価には、「コスバ」の考え方とは異なる部分があります。この点に関して、今我が国で行われている制度も含めてお話したいと思います。
98	中田 はる佳	専門家と一緒によりよい医学研究を考えよう	新しい薬や医療技術を開発したり、病気の原因を解明するための医学研究に関わった経験はありますか？ こうした「研究」は皆さんの健康を支えるために行われます。研究活動は主に専門家が中心となって行いますが、専門家以外の人々の意見も取り入れながらよりよい研究をつくる取り組みがあります。よりよい医学研究をつくるためにどうすればよいか、ぜひ一緒に考えてみましょう
99	中村 翔	1. 未病改善活動のすすめ 2. がん教育、健康教育	1. 神奈川県が開発した健康総合指標である未病指標はWHOが推進するhealthy ageingを実現するための取り組みに合致するものです。どのような年代の人でもより良い毎日を送るために健康・医療の側面から予防について考え、予防を身近なものにしましょう。 2. がんや生活習慣病を入り口に健康やそれと関連する生活習慣などについて、がん教育の視点からお話いたします（全がん連 がん教育外部講師e-learning修了）。
100	久保田 悠	「食べる」ことを科学的に考えてみよう	日常生活において「食べる」ことは健康を維持する上で必要不可欠な営みです。食べることに重要な役割を担うお口の周りにある器官の働きや、適切な食べ方について実習を通じて一緒に考えてみたいと思います。
101	黒河 昭雄	政策はどうつくられるのか？「価値」と「エビデンス」を考える	新型コロナウイルス感染症が流行するなか、その流行制御に向けて国と地方自治体のそれぞれが様々な工夫と対策をとを凝らしてきました。そうした国や地方自治体における「政策」がいかにして作られるのか、また政策をつくるうえではどのようなことを考えなければならないのか、「価値」と「エビデンス」という観点からみなさんと考えたいと思います。
102	根本 裕太	地域共生社会：人との交流はなぜ必要なの？	新型コロナウイルス感染症の流行により、人々の社会交流は大きく制限され、地域住民同士のつながりが希薄化しております。講義を通じて、高校生が自分たちと同年代の人と交流することの重要性、異なる年代の方ともつながることでのベネフィットについて解説させていただきます。